

# 令和二年度事業の概要

## 令和二年度「肥後医育塾」年間テーマ「二人に一人がなる『がん』を正しく知ろう」を開催

常任理事（事業担当） 片淵 秀隆

日本人の二人に一人がなる「がん」。

死に関わる「怖い病気」というイメージを持たれる一方で、早期発見できれば完治できる病気でもあります。そこで、今年度は「二人に一人がなる『がん』を正しく知ろう」をテーマに、年間三回のセミナーを開催します。それぞれ「がんの予防と早期診断」がんにならない、がんで死なないためにできること、「あなたがもし『がん』にかかったら、がん治療を受ける前に知っておきたいこと」「知っておきたい 次世代がん治療」がんの個性を知るための病理診断とゲノム医療」を取り上げます。

第七十回は、八月二十三日（日）に熊本市医師会館において、「がんの予防と早期診断 くがんにならない、がんで死なないためにできること」と題して、がんの治療技術の発展により、早期であれば完治できる時代になりました。重要なのは「予防」と「早期発見」に努める

ことです。がんの疫学と病因（五大がんを中心に原因からみる個人の予防策）、がん検診と血液一滴診断などの最新情報、遺伝性がん、子どもからの「がん教育」に着目し、予防、早期発見のためにできることをご紹介します。

第七十一回は、十一月一日（日）にホテル熊本テルサにおいて、「あなたがもし『がん』にかかったら く治療を受ける前に知っておきたいこと」（仮）と題して、がんの種類や患者さんの状態によつて効果的な治療方法は異なります。そのため、治療方法は医師とよく話し合い選択していく必要があります。このセミナーではがん専門医制度、セカンドオピニオン、AYA世代の生殖がん医療、緩和の考え方について専門家が詳しくご説明します。自身や身近な方ががんにかかってしまった時の不安を小さくし、がんと向き合っていくための知識や考え方を学びます。

第七十二回は、二月七日（日）に熊本市医師会館において、「知っておきたい 次世代がん治療 くがんの個性を知るための病理診断とゲノム医療」（仮）」と題して、例えば胃癌と病名がついても、

ひとりひとりのがんには個性があります。病理組織診断は、がんの診断とともにその個性としての「かたち」を観る重要なステップです。さらに、がんの「DNA」を調べ、より効率的で効果的ながん治療を行うゲノム医療が現実となってきました。現実的な近未来のがん治療を紹介します。

なお、いずれのセミナーも開催後約一月後に熊本日日新聞紙面に内容を掲載する予定です。また、本財団ホームページにも掲載いたします。

## 総合生活情報紙「あれんじ」の健康・医学・医療・学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

本年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」（タブロイド判十六頁三十五万部発行）の第一土曜日分の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。昨年度と同様に、メインの記事として「元気の処方箋」（最新の医学医療記事）を毎月掲載いたします。また、「子育て応援クリニック」（小児科関連の医学医療記事）（十面）も、読者からの希望が多いとのこと

で、毎号の掲載といたします。「慈愛の心・医心伝心」（女性医療人によるリーエッセイ）（十二面）はこれまで通り八回（五、六、八、九、十一、十二、二、三月）掲載いたします。「四季の風」（季節の新作俳句）は、これまで同様四回（四、七、十、一月）掲載いたします。

本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。

## 「第十一回熊本県医療人育成総合会議」の開催予定

常任理事（事業担当） 片淵 秀隆

習

テーマ…「Withコロナ時代の臨床実習」  
医療は、サイエンス、アートそしてヒューマン・プラクティス（対人行為）の融合体だという。そのいずれもが高度な内容を要求するのが際立つ特徴といえよう。医療人育成における臨床実習は、このうちの主として技術面と対人行為面との習得を担当すると考えられる。  
昨年の本会議（第十回…「医学教育の世界標準化と診療参加型臨床実習」で議論したごとく、近年の臨床実習の方法